愛川町教育委員会

令和6年9月24日

愛川町教育委員会 9 月定例会会議録

- 1 会議日程 令和6年9月24日(火)
午前9時00分から午前11時00分
- 2 会議場所 愛川町役場201会議室
- 3 議事日程 日程第1 教育長報告事項について
(1) 教育長報告
(2) 令和6年第3回愛川町議会定例会について
日程第2 不登校児童生徒の相談支援リーフレットについて
- 4 出席委員 教育長 佐藤照明
教育委員(教育長職務代理者) 大貫洋
教育委員 梅澤秋久
教育委員 篠崎美和
教育委員 齊郷浩之
- 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 亀井敏男
教育総務課長 宮地大公
指導室長 瀧喜典
生涯学習課長 小山文利
スポーツ・文化振興課長 井上守
教育総務課副主幹 前田幸寛

○(宮地教育総務課長) では、皆様、おはようございます。

本日の会議に当たりまして、傍聴希望者が2名お見えになっております。教育委員会では、法律の定めにより会議を原則公開としていますが、傍聴希望者の入室については、会議の冒頭で委員の皆様の許可を得た後に行うこととしておりますので、お諮りをいたします。

本日の議題については、特に非公開とするような内容はありませので、傍聴を許可したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○(宮地教育総務課長) よろしいでしょうか。

それでは、ご異議ないものと認めます。

よって、本日の会議は公開といたしますので、傍聴者の方を入室させてください。

それでは、傍聴者の皆様に申し上げます。お配りいたしました「傍聴を希望される方へのお願い」によりまして傍聴をお願いいたします。

また、会議次第以外の資料につきましては、閲覧用となっておりますので、会議終了後に回収をさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、教育長、よろしく願いいたします。

◎開会

○(佐藤教育長) それでは、改めまして、皆さんおはようございます。

9月の定例会ということで、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、本日の出席者は5名であります。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会9月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでありますから、ご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

○(佐藤教育長) 初めに、日程第1、教育長報告事項についてを議題といたします。

教育長報告について、資料1に基づき、私から報告をさせていただきます。

令和6年8月27日から9月23日までの期間に出席いたしました主な会議等について次のとおり報告をいたします。

8月27日、教育委員会定例会、その後、全員協議会。

28日、県教育局の支援部長さんと県央教育事務所所長さんが来室されました。これはGIGA端末の入替えについて、県の方針等の説明がございました。

30日、町議会本会議1日目、台風10号に関する対策本部会議がございました。

31日、台風第10号に関する対策本部会議。

9月2日、町議会本会議で2日目、一般質問です。一般質問等の内容につきましては、後ほどお話をさせていただきます。台風10号に関する対策本部会議が行われました。今回の台風については、ご承知のとおり3か所の避難所を開設いたしまして、そちらのほうに何名か避難をされました。

3日、町議会本会議3日目、一般質問。

6日、町議会本会議、個人総括質疑。臨時的任用教職員の面談がありました。

10日、町議会本会議5日目です。会派代表総括質疑。

11日、防火ポスターの審査会ということで、子供たちが夏休みに防火ポスターを描いたものを消防課で審査をして、これから広く周知する形になると思います。

12日、湯河原町の教育長を訪問いたしました。

14日、ふれあい広場で行っていただきましたけれども、この日は天気がよかったですね。少し暑いぐらいでしたけれども、そういう中でも多くの方が参加をされました。

17日、行政経営会議。県教職員企画課長さんと県央教育事務所の副所長さんが来室されました。働き方改革について県の方針等、来年度に向けての協議ということでお見えになりました。

18日、小中学校校長会議。全国大会奨励金交付式がございました。今回は世界大会に1名、それから全国大会に6名ということで、合計7名の方に奨励金を交付させていただきました。

19日、教育民生常任委員会。そして、SC相模原の方が3名来庁されました。これについては、また説明をさせていただきたいと思います。

20日、開成町の教育長さんが来室されました。

以上であります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑ありましたらご発言をお願いいたします。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) それでは、特に質疑ありませんので、教育長報告についてはご了承願います。

次に、令和6年第3回愛川町議会定例会について、資料2に基づき、担当からご報告を申し上げます。

教育次長。

○（亀井教育次長） それでは、資料2をご覧ください。

令和6年第3回愛川町議会定例会一般質問について、ご説明をいたします。

1枚おめくりいただいて、今回は2名の議員からそれぞれ3項目ずつ、合わせて6項目の一般質問をいただきました。それぞれ答弁概要をご説明いたします。

1ページをご覧ください。

渡辺基議員からの質問の1項目め、部活動の地域移行についてであります。

まず、本町の部活動方針については、国・県のガイドライン等の改定に伴い、教育課程との連携を図りながら行っており、少子化や働き方改革が進む中で、生徒が部活動に親しむ機会を確保、充実させていくため、新たな部活動の在り方を構築する必要性のあることを説明しております。

部活動の地域移行は、「地域の子供たちは学校を含めた地域で育てる」という意識の下、地域の実情に合わせながら体験格差の解消を目指すものであり、町では、教職員へのアンケートや部活動の在り方検討委員会を設置し、協議を進めるとともに、部活動指導員の配置や拠点校方式部活動を施行するなど、地域移行の推進に向けて取り組んでいく旨、答弁しております。

2ページをご覧ください。

渡辺議員からの質問の2項目め、学校図書館の充実についてであります。

まず、国の学校図書館の図書整備計画の概要、また本町においては、第4次の読書活動推進計画を策定したことを述べ、次に、学校図書館での具体的な取組内容や読書環境づくりなどについて説明し、学校図書館の果たす役割の重要性から、引き続き学校図書館の充実に努める旨、答弁しております。

4ページをご覧ください。

渡辺議員からの質問の3項目め、学校体育館への空調設備の設置についてであります。

この質問の要旨は、災害時の避難場所としての体育館の空調設備について問われたもので、町長から答弁しております。

まず、体育館の構造上、エアコン設置が難しいことを述べた上で、現時点では扇風機やスポットクーラー、協定に基づき、冷暖房機器を手配できる体制を整えていることを説明しております。また、普通教室、特別教室にエアコンを整備していることから、状況に応じてこうした教室を活用するなど、柔軟に対応する旨、答弁しております。

5ページをご覧ください。

井上議員からの質問の1項目め、家庭教育の支援の充実についてであります。

まず、家庭教育の役割を述べ、近年の家庭教育の状況を受け、教育振興基本計画に基づき各種施策の展開を図るとともに、コミュニティ・スクール事業を通じた地域ぐるみでの支援や先進的な支援方法の研究などにより、家庭教育のさらなる充実に努める旨、答弁しております。

6ページをご覧ください。

井上議員からの質問の2項目め、学校教育についての1点目、教職員の時間外勤務の解消に向けた取組についてであります。

まず、県の指針に基づき、本町においても各種の取組を行っており、具体的には給食費の公会計化、学校閉庁日の期間延長、部活動指導員の導入などを行ってまいりました。

また、教頭を構成員とする教職員業務改善検討委員会において、情報共有を図るとともに、今年度から夏休みの作文、ポスターの取りまとめに係る学校の関与を減らす方式に変更するなど、多忙化解消を進めていることを説明しております。

さらに、本年11月から、新たに保護者連絡サービスを導入することとしており、町といたしましては、教職員の働き方改革を推進する旨、答弁しております。

8ページをご覧ください。

井上議員からの質問の2項目め、学校教育についての2点目、今後の学校プールの在り方についてであります。

まず、水泳授業の状況、課題について述べ、働き方改革の観点から、公共プールや民間プールでの可能性などを検討していることを説明しております。その上で、学校外での水泳授業実施には課題もあることから、学校プールとの比較検証など、様々な角度から検討する旨、答弁しております。

説明は以上です。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 1つ目の部活動の地域移行についてであります。

本町では、昨年度からこの部活動の在り方検討委員会を設置して、検討をしているということですが、聞くところによると、いわゆる有識者が入っていないことが少々懸念材料かなというふうに思っています。法的な根拠となるのは、やはり学習指導要領に書かれて

いる生徒の自主的、自発的な参加による、そういう活動であるということ。しかも、課外活動であるということ。それであるにもかかわらず、ここに書かれているとおり、学校が設置、運営と。かなりイニシアチブが教員にあるところが、やはり課題かなというふうに思っています。

しかしながら、その検討委員会での概要を伺っていると、なかなか改善に、根拠に基づいた意見が少ないように個人的には感じています。重要なステークホルダーである生徒、そして保護者、先生方。今回の部活動改革は、先生方に着目が行っているところではありますが、子供たち、次に先生、そして保護者、それぞれのちょうどいい着地点、誰かがやっぱりちょっと折り合わない、これは着地が取れないところなので、なぜそういう着地に至ったのかという、その合意のプロセスを明確に検討委員会は進めていただきたいなと思っております。

以上、感想と課題です。

- （佐藤教育長） 指導室長。
- （瀧指導室長） 指導室長です。

ご意見ありがとうございます。先生方からのアンケートということで、昨年度取っております。今年度、中学生、それから小学校6年生並びに、その保護者からのアンケートを7月に実施しております、そこで様々な意見をいただいているところであります。ちょうど明日、部活動の在り方検討会、今年度の2回目を実施しますので、そのアンケートを基に、次年度以降、より子供たちが活動しやすい部活動ということで検討を進めてまいりますので、よろしくお願いします。

以上です。

- （梅澤委員） よろしく申し上げます。
- （佐藤委員長） 他にいかがでしょうか。

大貫委員。

- （大貫委員） 先ほどの梅澤さんのところの質問と同じなのですが、学校体育館の空調設備、これは災害のときに避難する場所になるということで、でも大型なエアコンなんかは設置が難しいから、扇風機やスポットクーラーにて対応すると。ただ、最近の洪水とか台風とかを見ていると停電だなど。だから、もう停電というのを前提で、避難してくる場所に例えば非常電源、発電機みたいなものを持っておいて、多少でもこれで冷房、冬だったら暖房になるけれども、そういうことが対応できるようなことも、先を見通して考えておかないと大変なことになるんじゃないかなと、この質問を読んだときに感じました。

○（佐藤教育長） 教育総務課長。

○（宮地教育総務課長） 答弁の所管は危機管理室になるのですけれども、各体育館への非常電源、発電機というのは、用意してあるというふうに聞いております。何か災害があれば、それを持ってきて体育館に接続して、電気を供給するというような体制は取れているというふうに聞いております。

以上です。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 同じ学校体育館の件です。今回のご質問は、避難所としての学校体育館というお話でありましたが、これ日常の学校生活においても非常に重要な視点かなというふうに思っております。というのは、都内の学校にお邪魔すると、都心部、区部はほぼ100%、体育館に冷房が入ってございます。市部でも、国立、三鷹、八王子は入っていないところもあると室長から聞いたのですけれども、ほとんどの学校が今はエアコンが入っている状況だと思われま。というのは、そんなに断熱とかを考えずとも冷気は下に下りてまいりますので、十分大型クーラーを4か所ないし、6か所設定すれば十分対応可能かなというふうに思っております。なので、子供たちの、今で言うと、6月から9月ぐらいの体育での熱中症リスク、これを考えると、私は早期に対応すべき課題かなというふうに思っています。

カリキュラムを今、自由に変えられるので、その時期、体育をやらなくてもいいという、そういう反論も一部あるのですが、一方で国際的には、体育でしか運動しない子というのが議論の俎上に上がっています。運動することによって、脳内ホルモンであるセロトニン、健康の大原則であるセロトニンが出ることが分かっています。

運動しない期間が、要するに体育でしか運動しない子が一定数いる。そして、運動しない期間が続くということカリキュラム上、定めてしまうということは、子供たちにとって、決して、幸せな人生を送れるようには考えにくい、ということで、継続的に健やかに体を動かせるような状況として、避難所以外としても、こういう空調設備、やはり整えるべきかなというふうに思っております。

多少の費用がかかります。かかりますが、子供たちが死に至ることのほうがよっぽどのリスクです。そのあたりを十分ご検討いただけるといいのかなと思います。

以上です。

○（佐藤教育長） 教育総務課長。

○（宮地教育総務課長） 教育総務課長です。

おっしゃるとおり、こちらの答弁は危機管理的な観点での答弁をしておりますけれども、当然子供たちの授業活動での側面もございます。我々としては、そちらのほうも考えていかなければいけないということで、いろいろな方面で研究しております。既に導入をしている市のほうに視察に行って、情報収集ですとか、そういった動きもしているところでございます。費用等の課題もありますが、多角的に相対的に考えていきながら、また我々も研究、検討していきたいと思っております。

以上です。

- （梅澤委員） 何十年に一度という言葉、もう聞き飽きるぐらい、もう気候変動されていますので、本当にそれに合わせて、いち早く対応いただけるとありがたいなと思います。

以上です。

- （佐藤教育長） 訪問等もして、金額等も出したりしていますので、かなり金額はやっぱり高い状況ではありますけれども、今後また研究しながら進めていきたいというふうに考えていますので、よろしく願いいたします。

他にいかがでしょうか。

大貫委員。

- （大貫委員） 井上議員のところの1項目めの家庭教育の支援で、こういった答弁をしておりますけれども、これ以上詳しく言いようがないような内容で、答弁の中で記録に残さなくても、答弁の中に、今まで教育行政でやってきた様々な施策によって、ここ近年の青少年の問題行動数の減少、今はあまり使わない言葉だけれども、非行だとか暴力、あるいは我々が若かった頃は校内暴力なんていって、もうどうしようもなく荒れ果ててきた、そういう数は圧倒的に減っているんですよ。

それはもちろん地域や家庭の人たちが協力しているのだけれども、教育行政、施策で手厚く人を派遣するとか、もちろん学校の先生も頑張っていますけれども、そういうような面が非行の減少数に大いに表れているというようなことも、ぜひ答弁で言ったほうが良いと思うね。それが一つ、この答弁書を読んで、そういうようなこともぜひ言ったほうが良いなど。効果が上がっているというようなことを我々のほうから言うのはおこがましいかもしれないけれども、でもやっぱりやっていることの効果が出ているよと力説したらいいな。そう思いました。

- （佐藤教育長） 生涯学習課長。

- （小山生涯学習課長） すみません。ご意見ありがとうございます。

次回、そういったとき、機会がありましたら、あえて言えるようにしていきたいと。ありがとうございます。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

○（篠崎委員） 渡辺基議員の2番目の学校図書館の充実についてということなのですが、平易な感じだったので、実際どういったような質問で、何かこうしたほうがいいのかそういったご意見をいただいたのかどうかというところをちょっとお伺いできればと思います。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長） 指導室長です。

渡辺議員の主な思いとしましては、学校図書館に関わっている方、蔵書点検の支援をしている方の力を借りながらですが、蔵書点検の手間というか、そういった作業が簡単になることによって、先生方もその時間をうまく省略することで様々な教育活動にプラスになるのではないかというご意見がありました。その点で、蔵書点検という部分で、いろいろな課題もありますし、それをうまくやっていく方法もあるのではないかというご意見はいただきました。

以上です。

○（篠崎委員） ありがとうございます。

もう一つ、すみません。外国につながるのあるお子さんが読める本というのが今、かなり学校図書館に準備されているのかどうかをちょっとお伺いしたいと思います。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長） 指導室長です。

こちらの答弁にあります外国につながるのあるお子さんの本というのは、中津小学校でJICAさんとちょっと関わりを持ってしまして、そちらで声がけをして、もらっている本ということをお伺いしております。

以上です。

○（篠崎委員） ありがとうございます。

では、まだ中津小学校以外には、なかなか準備はできていないといったところが課題でしょうか。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長） 指導室長です。

ごめんなさい。ほかの学校さんについては、私も把握はしていない部分があるのですけれど

ども、特に中津小学校さんでは、そういった本をちょっと充実させているという話を聞いたところですよ。

以上です。

○（篠崎委員） ありがとうございます。

そうですね。まず、日本語を習うところからということだと思いますので、なかなか本まではというところもあるのかもしれないのですが、やはり学校図書館で外国にルーツのある方々が読める、そういったものを少しでも多く取りそろえてあげられたらいいなという感想を持ちました。

以上です。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 学校図書館について、渡辺議員のご意見、私も同感かなと思います。蔵書点検、かなり先生方にとって手間かなと。私の経験からも感じます。いわゆるバーコードリーダーみたいなものを貼って、これもICT化によってかなり簡易になると思うんです。全職員で、私も何回かやったんですけども、全部の本のチェックをアナログですするという、年1、夏休みとかにやったりするんですけども、とてもじゃないけれども1日で終わらず、図書館教育部みたいな人たちが何日もかけて行うというような、そういう経験があります。

一方で、全部ICTで管理できていれば、そこは一括ですよ。ただ、誰がそのバーコードを作成して貼り付けるかという、その手間があるのかなというふうに思います。先ほど聞いたところ、地域の図書館ボランティアという方がいらっしゃるということでありますので、そのあたりの方と新しい協議をしていただけるのがいいのかなと。これは個人的な意見です。特段、ご返答は結構です。

もう1点、外国にルーツのあるお子さんたちへの対応ですが、図書館というか、今、メディアセンターみたいな、本もあるし、映像もあるし、音楽もあるし、うちの文化会館の図書館もそうですけれども、いろんなメディアが混在していることが非常に重要かなと思います。

外国から日本に留学してくる子たちのほとんどが、日本のアニメで日本語を勉強しました。うちの学生なんかは言ってきますね。となったときに、そこでもう来日する前に既にメジャーであったアニメとかを見られるようなそんな場所があると、図書館の一角にあると、これからのメディアセンターとしての一つの在り方かなと思われまます。そのことは実は、少し教室から足が遠ざかりがちなお子さんたちにとっても、ひそかな居場所になったりとか、運動じゃなく休み時間を豊かに過ごしたいと思っている子たちにとっての豊かな使い方だっ

たりとか、そういう可能性も秘めているのかなと思います。何にしても、単なる本があるだけの場所ではない、そういうメディアセンターに、メディアライブラリーセンターというかな、に変わっていくことを期待しています。

以上です。

- （佐藤教育長） 大貫委員。
- （大貫委員） 今、梅澤さんが言われたバーコードで読み取るというのは、もうやっていなかったのか。

（「やっていないです。」との声あり）

- （大貫委員） やってないのか。
- （梅澤委員） 学校はやっていないですよ。
- （佐藤教育長） 学校はやっていない。町の図書館は当然やっていますけれども、それに連動したものが本当は一番理想的だというふうには認識しているところですが。
- （梅澤委員） 誰が、いつ、どうやって。
- （佐藤委員長） 1校だけ、実はバーコードで確認作業だけ、本の名前は出ないんですけども、あるなしだけを確認できるバーコードを使っている学校が1校だけあるんですね。でも、それは本の名前が出ないので、それ以上の活用ができないということがありまして、入れるのであれば、町の図書館でやっているようなバーコードで本の名前が出て、それを共有する、町全体で学校の図書館と町の図書館を共有するような形が理想的だというふうに考えており、そういう方向で研究はしています。

生涯学習課長。

- （小山生涯学習課長） すみません。おっしゃるとおり、今、ある学校では先生が自主的に開発したプログラムを使ってデータの構築をしているようです。ですので、まず先生方の負担軽減ということを考えれば、これはまだちょっと担当者レベルの話なので、今後どういうふうに動くか分からないんですけども、まずデータベースの構築をしていきたいと考えております。その構築の仕方につきましても、神奈川工科大の方と協力をしながら、そういったプログラムを開発してやっていきたいなという思いをしております。さすれば、当然ながらデータベースをまずは構築すれば、先生方の負担の軽減になりますので、ウィン・ウィンになるようなことをやっていきたいなという思いを今のところしております。
- （佐藤教育長） 将来に向けては、全ていけるというふうに思います。
他にいかがでしょうか。

(発言する者なし)

- (佐藤委員長) それでは、他にないようでございますので、今ご意見いただいたものについては、また各課で検討させていただくような形になると思いますので、よろしくお願いいたしますします。

それでは、他に質疑ありませんので、令和6年第3回の愛川町議会定例会については、ご了承願います。

◎日程第2

- (佐藤教育長) 次に、日程第2、不登校児童生徒の相談支援リーフレットについてを議題といたします。

それでは、内容について、資料3に基づき、担当からご説明申し上げます。

指導室長。

- (瀧指導室長) 指導室長です。

では、資料3をご覧ください。

愛川町不登校児童生徒の相談支援リーフレットになります。

こちらの資料は、8月の全員協議会で一度お示しさせていただいているものです。そのときに何点か修正点ということでご指摘を受けましたので、そちらを修正したものになります。こちら9月の校長先生たちの会、校長会でも示させていただいておりますので、今回皆さんにお示しをして了承が得られれば、今後の予定ですけれども、町の教育委員会のホームページに掲載、それから11月から始まります連絡メール、そちらのほうで保護者にお知らせをしていこうかと考えております。よろしくお願いいたしますします。

説明は以上です。

- (佐藤教育長) これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

篠崎委員。

- (篠崎委員) 先月、幾つかご意見させていただいたところが分かりやすくなったので、きちんと修正されていると思いました。

もう1点、これはリーフレットとなっておりますけれども、連絡メールとホームページだけになりますでしょうか。保護者に紙の状態では届くのでしょうか。

- (佐藤教育長) 指導室長。

○（瀧指導室長） 指導室長です。

現在、ホームページと連絡メールの添付で各ご家庭に送られますので、そういった形で進める考えであります。

以上です。

○（篠崎委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（佐藤教育長） 新しい連絡メールは、添付ファイルができるものになっていますので、印刷をかけなくてもご自宅で印刷もできるし、見ることもできる、そういう形で代用しようということですか。

○（篠崎委員） 翻訳のアプリつきということでしょうか。

○（佐藤委員長） そうです。

○（篠崎委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（佐藤委員長） 他にいかがでしょうか。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 小さいことなんですけれども、表面右側、「子どもはどう感じている？」の下の本文のところがちょっと何か詰まってしまっているというか、重なってしまっているので、多分改行のずれかな。その下の「どう接すればよいか？」も多分同様かと思しますので、このあたり体裁を整えて発していただければと思います。

（「ありがとうございます」との声あり）

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） では、他にないようでございますので、今の話のとおり、これについては全家庭に配布するような形で今後活用していただくよう取り組んでまいりたいと思しますので、よろしく願いいたします。

それでは、他に質疑ありませんので、日程第2、不登校児童生徒の相談支援リーフレットについてはご了承願います。

◎閉会

○（佐藤教育長） 本日の案件につきましては全て終了いたしましたけれども、各委員からご意見、ご感想がありましたらお願いいたします。

梅澤委員。

○（梅澤委員） すみません。言い忘れた点がありました。

先ほどの一般質問に対する回答の学校教育の中の時間外勤務解消に向けた取組について、私は教員養成の学校に赴任していますので、学生たちにアンケートを取っています。教員にならない一番の理由は、保護者対応の大変さ、ここに尽きます。過度な要求をしてくるといふことに対する現場の先生方の疲弊的なコメントを聞いて、何か夢や希望を持って行きたい職場ではないなど。

手前みそながら、うちの大学は国立ですので、非常に優秀な学生が集まっています。そういった学生ほど教員にならない、そういう悪循環をつくってしまっている現状があると。彼らは、忙しいことに対しては決してネガティブではないです。ただ自分がやりたいことでないこと。過度な要求、あるいは自分の子供しか見えていないような要求に対する対応が、ほかの子たちに対する支援時間とか、そういったもの等の何というのかな、時間のやりくりがうまくいかないことへのジレンマ、そういうことへの不安、不満で教員にならないという、そういう悪循環が生まれています。

文科省もスクールロイヤーをより一層活用すべき、本町でまだ採用されていませんが、そのスクールロイヤーに直接保護者対応をさせることをも辞さないということも言ってきています。そのあたりも踏まえて、本町、より先生方がウエルビーイングに働けるような、そういう施策を組んでいかなきゃいけないと思っています。もうこの事案は終わっていますので、あくまでも1つの意見ということで終わりにしたいと思います。

以上です。

○（佐藤教育長） ご意見ということでございますけれども、教育実習をして、さらに教員になろうと思う学生さんが多くなればよいなど。その逆のほうが最近が多いというお話を聞いておりますので、やっぱり学校現場の中でしっかりとその辺のところを意識しながら、働き方改革も含めて取り組んでいかなければいけないかなというふうには思っておりますので、また町の政策の中で、その辺のところも加味しながら進めていけたらなというふうに思います。

とにかく働き方改革は、子供と接する時間を増やすための働き方改革ですから、先生方が時間をつくるというものではないので、その辺のところもしっかりと意識した上で取り組んでいく必要があるのかなと感じております。

県のほうの動きも非常に、今回の県議会でも働き方改革が出ておりまして、教育長さんのほうから前向きな答弁がされていますので、町としてもしっかりと取り組んでいきたいなというふうに思います。

他にいかがでしょうか。

それでは、事務局のほうから何かございますか。

(「大丈夫です」との声あり)

○(佐藤教育長) 大丈夫ですか。

それでは、特に他にありませんので、以上で9月定例会の議事日程全て終了いたしましたので、閉会としたいと思います。ご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○(佐藤教育長) ご異議ないものと認めます。

よって、9月の定例会を閉会といたします。

大変お疲れさまでございました。

なお、次回の定例会ですが、10月22日火曜日9時から、この201会議室で開催しますので、よろしく願いいたします。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

令和6年9月30日

教育委員会教育長

佐藤 照明

教育委員会

教育長職務代理者

大貫 洋

教育委員

梅澤 秋久

教育委員

篠崎 美和

教育委員

齋 郷 浩之

調整職員

池村 茉莉子